



2017年度上期 決算のご説明

(2017年4月1日～9月30日)

- I. 17年度上期 決算概要
- II. 中期計画“GC20”の進捗状況

2017年10月26日
本多通信工業株式会社
代表取締役社長 佐谷 紳一郎



I. 17年度上期 決算概要

今世紀最高の業績を踏まえ、通期業績予想を上方修正&増配
あわせて株式分割を実施



1. 17/上の実績

良好な市場環境を背景に業績拡大
売上高・営業利益・経常利益とも今世紀最高

単位:百万円

	16/上 (利益率)	17/上 (利益率)	対前年	期初 業績予想	進捗率
売上高	8,103	9,616	1.2倍	18,000	53%
営業利益	563 (6.9%)	1,041 (10.8%)	1.8倍	1,600 (8.9%)	65%
経常利益	468 (5.8%)	1,098 (11.4%)	2.3倍	1,500 (8.3%)	73%
純利益	384 (4.7%)	※715 (7.4%)	1.9倍	1,100 (6.1%)	65%

期中レート

105円

111円

※ 特別損失...土壤汚染浄化 80百万円(後述)
実効税率...16年度 18% ⇒ 17年度 30%

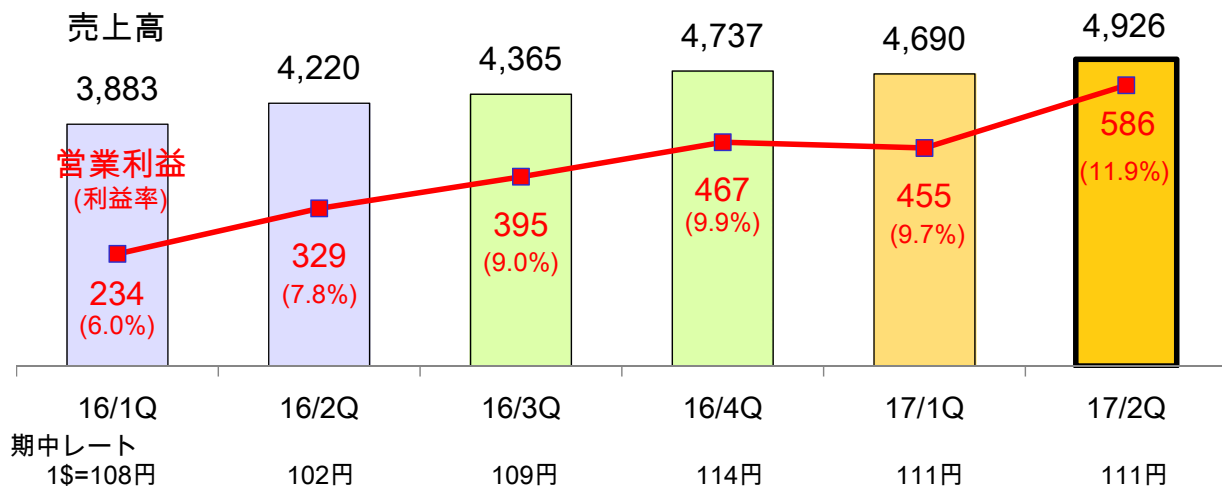
Value by Connecting HTK



2. 四半期/半期 業績推移

17/2Q...16/2Q比 売上17%増、営業利益78%増
営業利益率が10%超え

単位:百万円



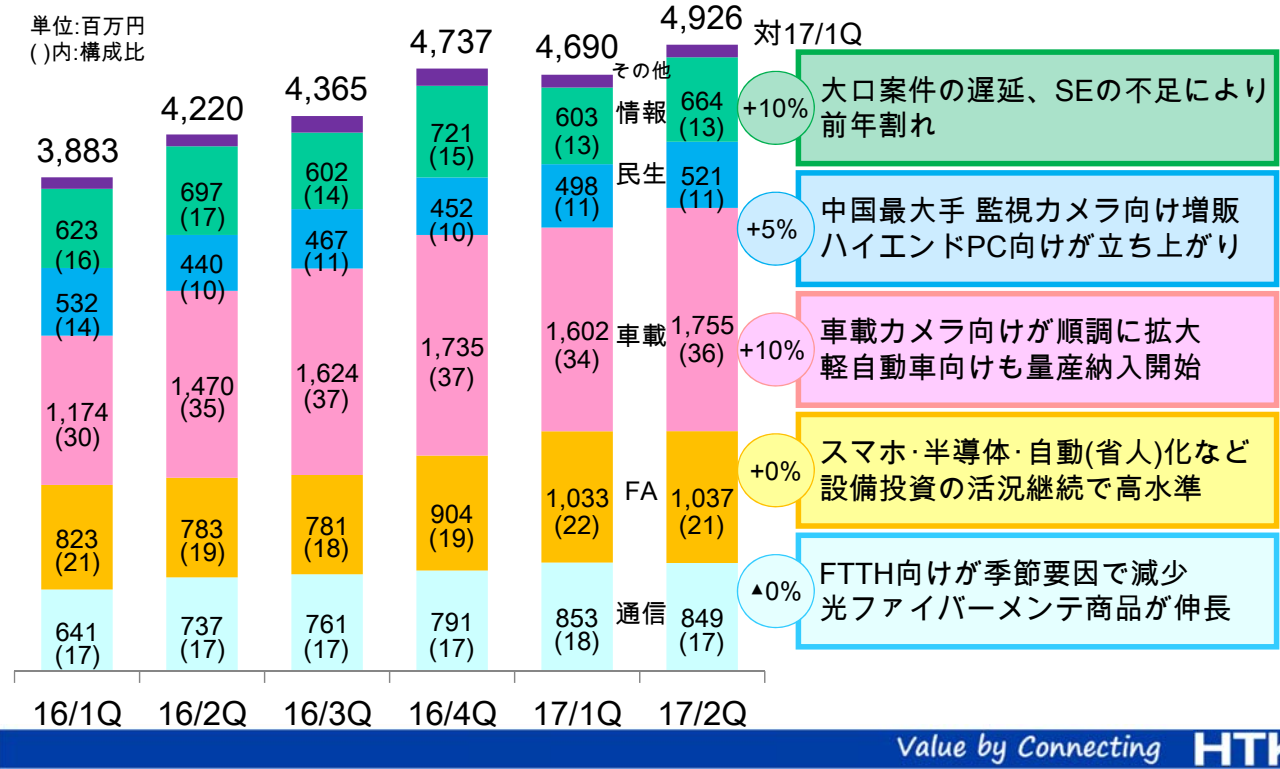
	16/上 [1\$=105円]	16/下 [111円]	17/上 [111円]
売上高	81.0億円	91.0億円	96.1億円
営業利益	5.6億円	8.6億円	10.4億円
利益率	6.9%	9.5%	10.8%

Value by Connecting HTK



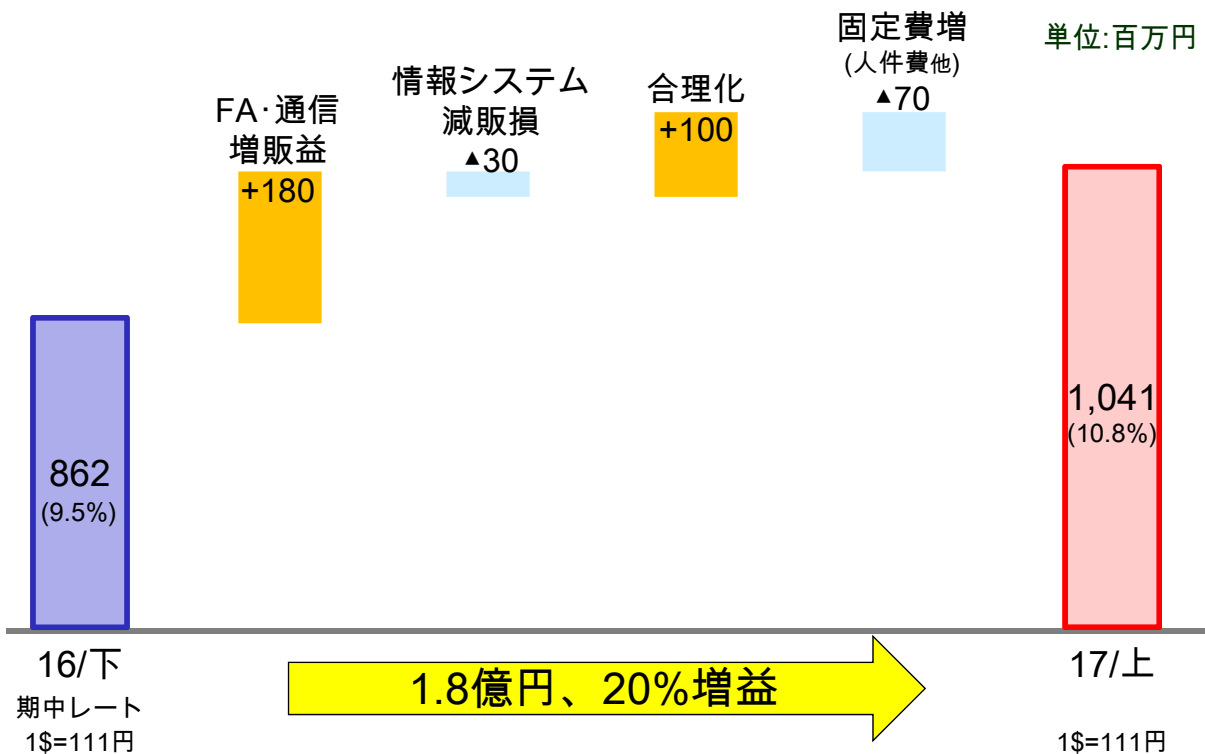
3.分野別の売上推移

旺盛な設備投資需要を受けたFA分野が高水準で推移
車載分野が順調に拡大



4.営業利益 16/下:17/上 比較

限界利益率の高いFA・通信分野の増販が増益に寄与



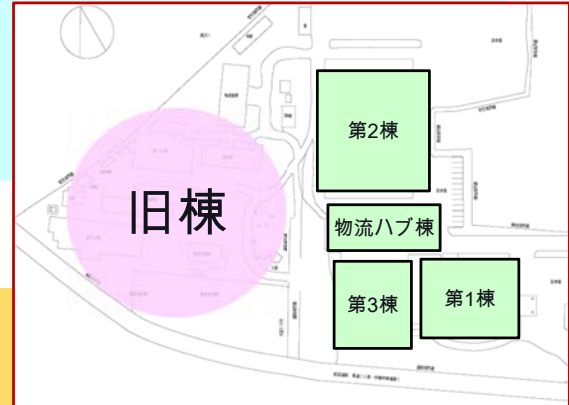


5. 土壌汚染 浄化工事の実施

安曇野工場の旧棟敷地にて土壌浄化工事を実施します

■汚染の概要

- 1.旧棟解体に先立って土壌調査→基準値を超える鉛汚染を確認
- 2.汚染面積=1,928㎡、最大深度=4m、平均深度=1m未満
- 3.地下水汚染はなし
地下水観測井を設置し、第一帯水層(77.3m)の地下水を採取/分析



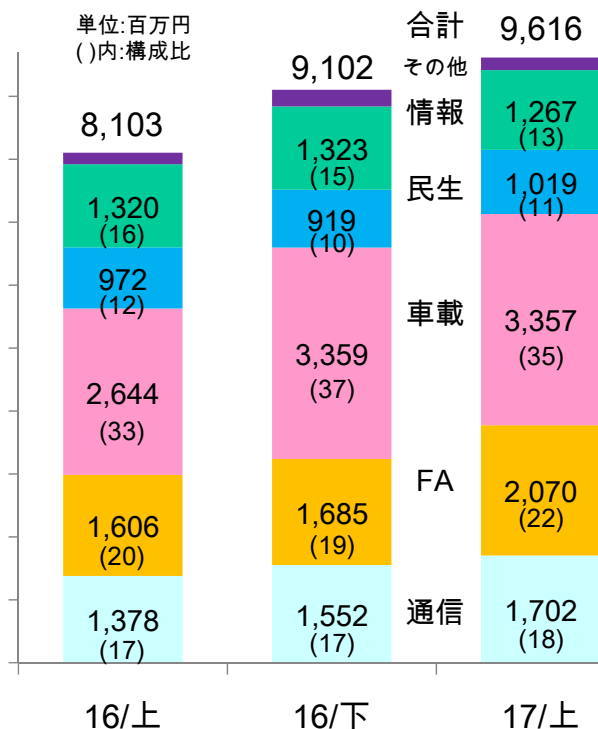
■浄化工事の骨子

- 1.汚染土量:1,653㎡(2,975 t)
- 2.処理方法:オンサイト洗浄
対象土の全量を敷地内で洗浄/分級、浄化土を埋め戻す
他方式に比べ、工期は1.5倍も搬入搬出の車両往来は10分の1
- 3.工期:行政による審査完了後、18年1月~8月実施予定
- 4.費用:80百万円



6. 17/下の分野別動向

車載は戻上がり、FAはやや減速も高水準→上期レベルを期待



◆17/下の動向 (対17/上)

- ➡ プラス・マイナス要素があるが、概ね上期レベルを期待
- ➡ 需要旺盛も、SE不足が顕著
堅調なIoT案件等で通期増収を狙う
- ➡ UHS-II (SDソケット)の採用増
東京オリパラ向け納入スタート
- ➡ 車載カメラの搭載車種・個数が拡大
年度末に向けて戻上がり
- ➡ スマホ設備がピークアウト
国内外で省人化/自動化投資が活発
- ➡ 光ファイバーメンテ商品が一段落
国内FTTH向けが必要期に合わせ増加



7.通期業績予想

FA分野の高水準な推移と車載分野の伸長を見込み上方修正

単位:百万円

	16年度 (利益率)	17年度 当初予想	上期 進捗率	17年度 修正予想	前年比	利益面の補足事項
売上高	17,205	18,000	53%	19,000	110%	◆営業減益要因(対上期) ○減販/販売構成 ▲100 ○費用増 ▲150 (人件費/減価償却費/ 試験研究費等) ◆特殊損益見込み ○為替差損他 ▲50 (1\$=113→108) ○特別損失の発生 ▲80 (土壌汚染浄化費用) ○法人税等 ▲520 (実効税率30%)
営業利益	1,425 (8.3%)	1,600 (8.9%)	65%	1,850 (9.7%)	130%	
経常利益	1,476 (8.6%)	1,500 (8.3%)	73%	1,800 (9.5%)	122%	
純利益	1,542 (9.0%)	1,100 (6.1%)	65%	1,200 (6.3%)	78%	
期中レート	108円	108円		110円		
期末レート	113円	104円		108円		

Value by Connecting HTK



8.増配と株式分割の実施

上方修正に伴い増配、株式分割を決定

◆増配

通期業績予想の上方修正、
および株主還元方針(総還元性向30%)に基づき、
期末配当予想額を27円から30円に増配

◆株式分割

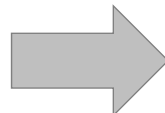
投資に必要な金額を引き下げることにより、
株主数の増加と株式の流動性の向上を図る

- ・ 当社普通株式 1株を2株に分割
- ・ 基準日：2017年11月30日 効力発生日：12月1日

前回予想

1株につき

27円



今回予想

1株につき15円

実質 30円

(株式分割前換算)

※株式分割後も来期以降の株主優待制度の対象となる条件や内容に変更はありません

Value by Connecting HTK

II. 中期計画“GC20”の進捗状況

1. 17年度の位置づけ

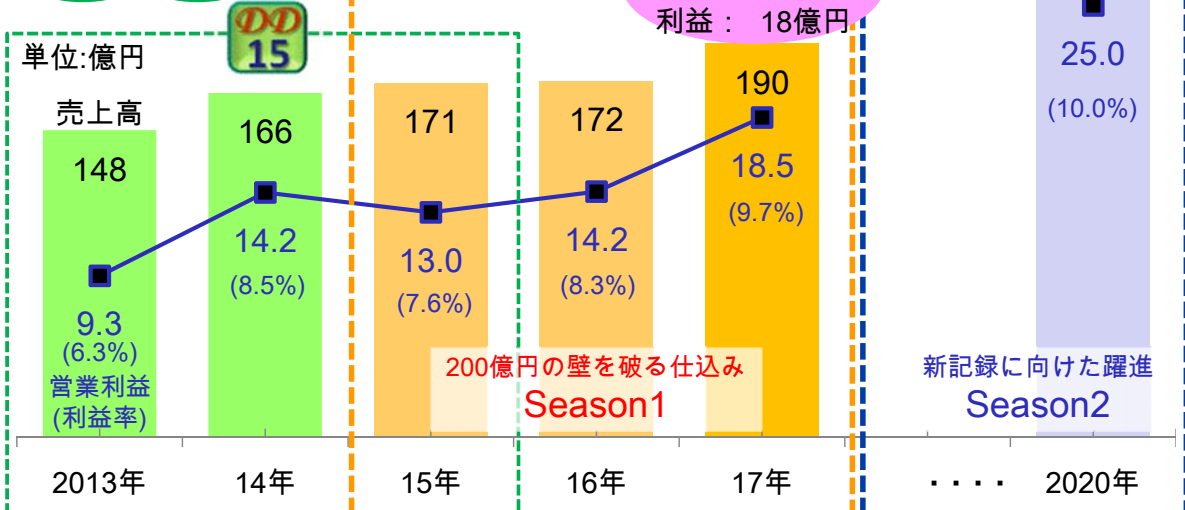
仕込みのSeason1の最終年
業績目標はほぼ達成の見込み



よい会社+新記録⇒持続性

売上 250億、利益率 10%、ROE 13%+α

当初計画
売上：200億円
利益：18億円





2-1.仕込みへの取組状況

2020年 過去最高業績に向けて、仕込みを加速

16年度 86億円
→ 20年度 115億円
利益率 11%



業務用 コネクタ事業

- ◆ 対象市場の拡幅
- ◆ 多品種少量の深耕
- ◆ 新事業の創出

16年度 60億円
→ 20年度 100億円
利益率 10%



車載用 コネクタ事業

- ◆ 製造力の増強
- ◆ 品質力の強化
- ◆ 次世代商品の開発

プラットフォーム ◆厚生棟の建設 ◆基幹システムの刷新



2-2.業務用コネクタへの仕込み

特長ある商品/サービスで高付加価値化

◆対象市場の拡幅 Seg1商品を特長が活きる市場へ拡げる 0.5億円



【特長】
・ UHS-II対応(高速伝送)
・ ノイズ低減 ・ 放熱性

一眼レフカメラ

SDカード UHS-II
ソケット

NEW ハイエンドPC
撮影ドローン



【特長】
・ 長期信頼性、堅牢性
・ 小型 ・ 高速伝送

FAコンポ

小型I/O
コネクタ

NEW 半導体製造装置、蓄電池
医療機器、社会インフラ etc.
⇒市場適合モディファイ
+ 国内外ロングテールを狙う

業務用
コネクタ事業

◆多品種少量の深耕

ロボットとヒトとの協働による
多品種製造ラインを構築 1億円

⇒1weekデリバリーを拡充



合理化
省人化

◆新事業の創出 1億円

8K対応の光コネクションを開発

医療機器向け
産学連携で
案件に対応

民生機器向け
ユーザと共同開発

産業機器向け
コンセプトモデルを開発
プレスリリース後、
『SCF 2017』に出展





2-3.車載用コネクタへの仕込み

2020年100億円、10%利益に向けてQCDを強化

◆製造力の増強

生産能力・・・16年 1,000万個 ⇒ 20年 2,000万個

- カメラ用コネクタ
全自動生産ラインの導入

3億円

稼動予定：2018年初頭

効果：供給力の拡大
生産性 2.6倍向上

- 製造拠点の追加

深圳工場



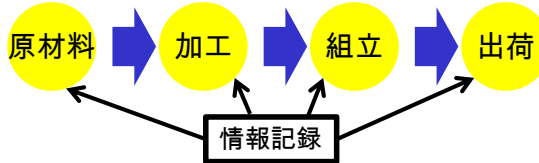
ASEAN地域に
新製造拠点を検討中

車載用
コネクタ事業

◆品質力の強化

1億円

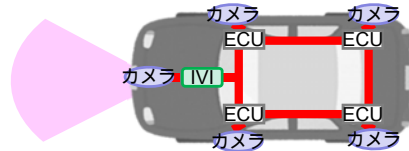
- 品質モニタリングシステムの導入
サプライヤーを含めた
グローバルでのトレーサビリティを確立



◆次世代商品の開発

1億円
以上

- 次世代デジタルカメラ用の創出
⇒ 案件獲得・量産体制の構築



- 新部位への参入
⇒ 車内ネットワーク用コネクタの開発

Value by Connecting HTK



2-4.プラットフォームへの仕込み

職場環境と情報インフラを整備

◆厚生棟の建設 2.5億円

働きやすい職場環境に向けて、安曇野工場に建設予定

カフェテリア & 独身若手向けシェアハウス

イメージ)



コンセプト

混じり、学び、伸びる
安曇野キャンパス

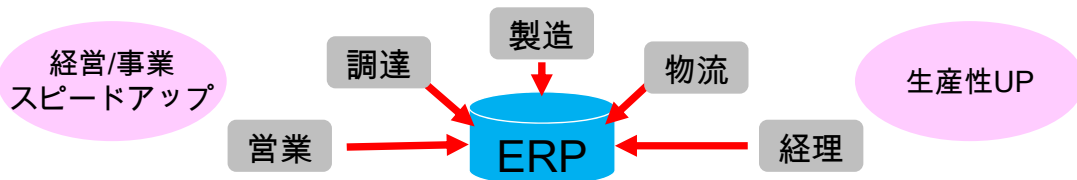


19/4
オープンを目指す

◆基幹システムの刷新 3億円

SAPの導入を決定、オペレーションから判断業務へシフト

ヒト・モノ・カネ・情報を一元管理

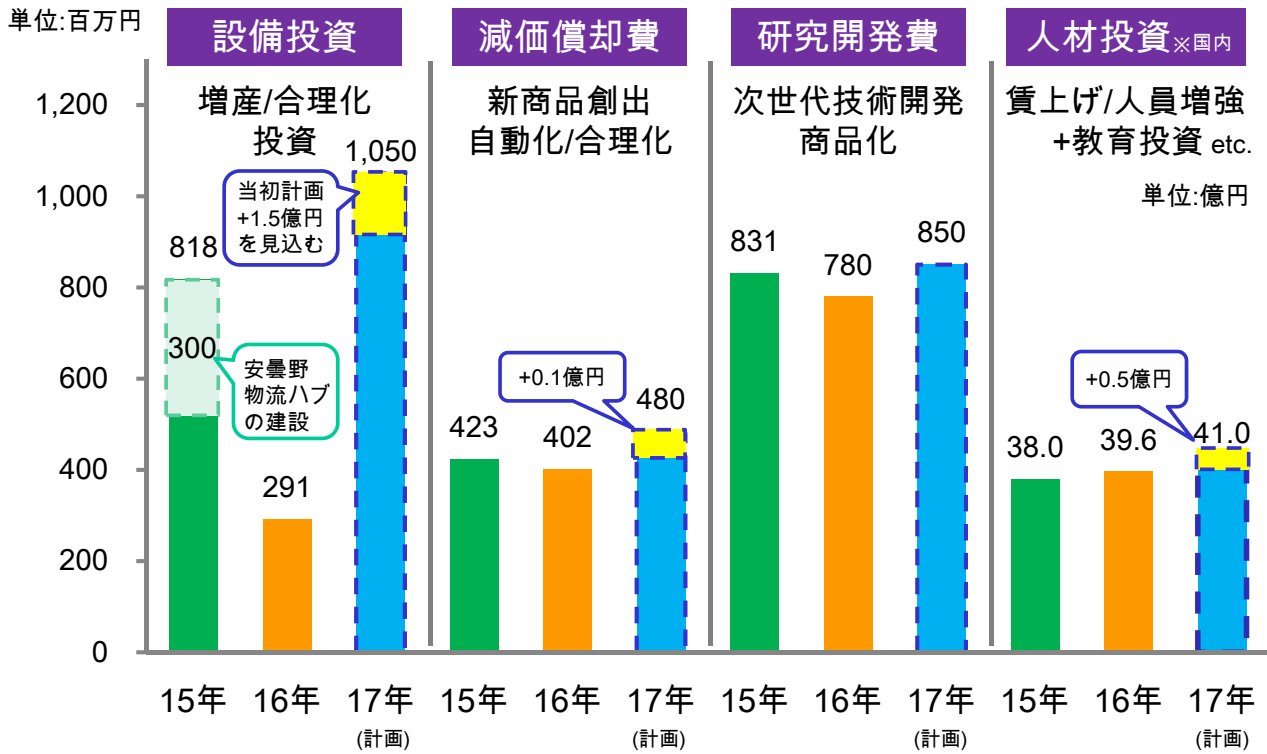


Value by Connecting HTK



3.投資等の積み上げ

設備と人材に追加投資



参考.単体受注 四半期推移

	1Q			2Q			3Q			4Q		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年度 前期比	+12			+1			-			-		
前年比	+25			+8			-			-		
2016年度 前期比	+1			+16			-10			+7		
前年比	-2			+21			+7			+13		
2015年度 前期比	+3			-6			+2			+1		
前年比	-2			-7			-8			0		

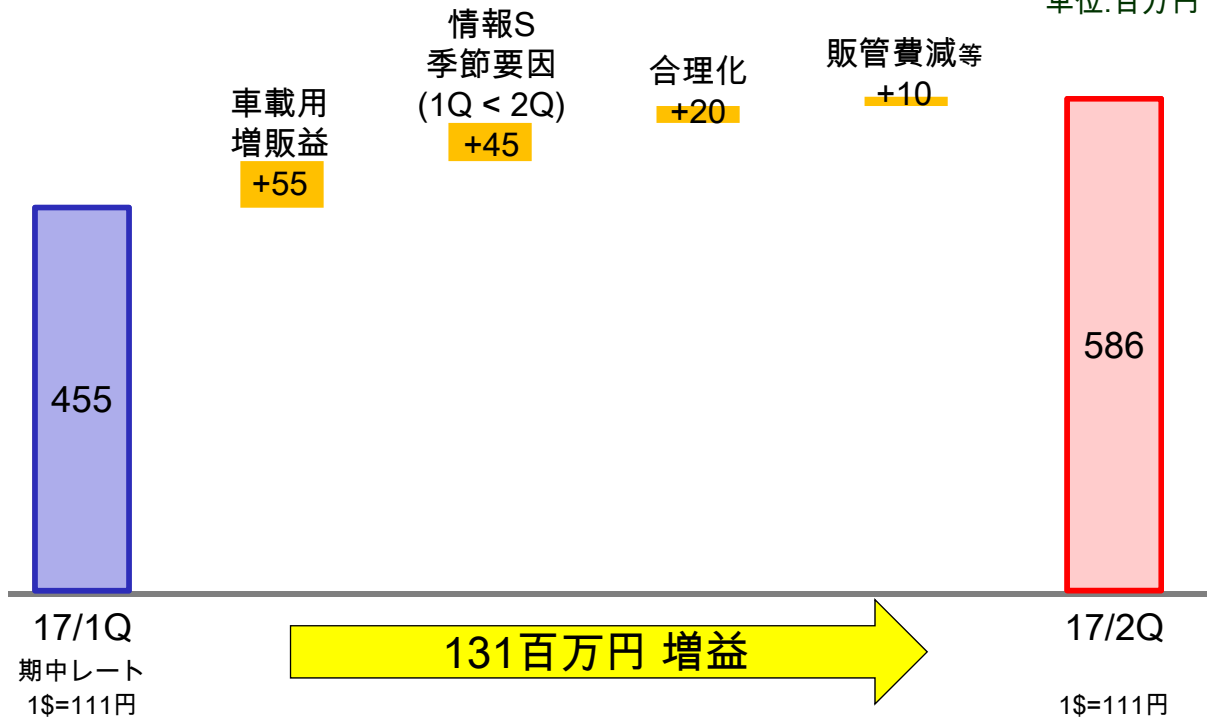
※社内為替レートで算出(2017年4月から1\$=100→110円に変更)



参考.営業利益 17/1Q:17/2Q 比較(10/30追加資料)

車載の増販および情報システムの季節要因により増益

単位:百万円



参考.営業利益 16/上:17/上 比較(10/30追加資料)

増販・合理化・円安効果で1.8倍へ大幅増益

単位:百万円

